

① 病院概要

1964年、当院は脳血管研究所の附属施設として、脳卒中診療の専門病院として設立されました。1966年、慶應義塾大学医学部指定の脳血管障害専門医研修教育機関、1970年、文部省学術国際局管轄の学術研究法人と認定され、単に地域の脳卒中診療の中心として活動するに留まらず、教育機関、研究機関としての役割を果たしてまいりました。時代の変化に伴い、現在、脳卒中に限らず、神経難病、認知症などの脳・神経疾患を対象として、これらの疾患の診断、急性期から回復期の治療、さらに在宅医療までで一貫して治療に当たることをミッションとしており、その実現のため、関連施設として訪問看護ステーション、介護老人保健施設、特別養護老人ホームを有しています。

病院の急性期病棟にはSCUも設置され、主に脳卒中救急医療に対応し、二次医療圏の脳疾患救急搬送の占有率は40%以上となっています。回復期リハビリテーション病棟入院患者のほぼ9割は、脳卒中患者であり、実績指数52.6、1日あたりのFIM利得は0.43(2022年度)と効率・効果的なりハビリテーションを提供しています。障害者等一般病棟は神経難病のレスパイトケア、リハビリテーションを目的とした短期入院を主として運用しており、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病などの患者を受け入れています。

これらの患者が在宅療養中である場合には、地域のかかりつけ医のみではなく当院からの訪問診療でも対応しています。なお、在宅療養が困難で長期入院を希望する患者に対しては剖検の事前同意によるブレインバンクへの協力を依頼し、受け入れています。

[施設認定] 日本神経学会認定医研修教育機関／日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院／日本脳神経血管内治療学会研修施設／日本認知症学会専門医認定研修教育病院／日本頭痛学会認定教育施設／日本脳卒中学会一次脳卒中センター／日本脳神経外科学会認定医研修教育施設／日本定位・機能神経外科学会技術認定施設

② 脳神経内科の特徴

脳卒中の急性期治療に関して当院は日本脳卒中学会の一次脳卒中センター(PSC)、一次脳卒中センターコア、日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育施設として認定されています。脳卒中科を設置し、脳神経内科医、脳神経外科医が合同カンファレンスを開催するなど、協力して治療に当たっています。

虚血性脳血管障害に対するt-PA治療は年間30～40例、脳血管内治療による緊急血栓回収術は30～40例実施しており、血管内治療専門医取得を目的とした他大学の脳神経内科教室の若手医師の派遣を受け入れています(研修期間は1～2年)。

神経難病に関しては、外来診療において筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症など多くの患者の診断、治療、フォローアップに対応しています。特に神経難病に対するリハビリテーションに力を入れ、神経難病リハビリテーション科を設立しました。神経難病の臨床的研究には、群馬大学医学部脳神経内科教授、池田佳生先生にアドバイスをいただいております。プリオン病をはじめとする神経難病の病理学的研究にも力を入れ、年間の剖検例は他院から依頼を含め15～20例です。神経病理に関して国立精神・神経医療研究センター臨床検査部、高尾昌樹先生にご指導いただいております。

認知症に関しては、群馬県より認知症疾患医療センターの委託を受け運営しています。当院の認知症疾患医療センターの役割は認知症の診断とその患者と家族の援助であり、認知症専門医、専門看護師、公認心理師、医療相談員のチームで対応し、認知症疾患医療センターの初診患者数は年間約600例です。診断後は地域のかかりつけ医に紹介し、その後定期的にフォローアップしています。

③ スタッフ(専門分野含め)について

院長 美原 盤	慶應義塾大学卒 脳神経内科 日本脳卒中学会指導医、日本神経学会指導医、日本頭痛学会指導医
副院長 赤路 和則	慶應義塾大学卒 脳神経外科 日本脳卒中学会指導医、日本頭痛学会指導医、日本脳神経外科学会指導医、日本脳神経血管内治療学会指導医、日本脳卒中の外科学会技術指導医、日本認知症学会指導医
脳神経内科 部長 古井啓	浜松医科大学卒 脳神経内科 日本神経学会専門医
認知症疾患医療センター センター長 針谷康夫	群馬大学卒 脳神経内科 日本神経学会指導医、日本認知症学会指導医、日本脳卒中学会専門医、日本老年医学会専門医
脳卒中科 部長 木幡一磨	獨協医科大学卒 脳神経外科 日本脳卒中指導医、日本脳神経外科指導医、日本脳血管内治療学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医